

創造的復興研究会・第 2 回研究会
議事録

日時：2021 年 11 月 5 日（金）18:00-20:10

方式：Zoom

出席者（敬称略）：

研究会代表：

松岡俊二：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授

研究会副代表（ABC 順）：

林 誠二：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・研究グループ長

研究会メンバー（ABC 順）：

遠藤秀文：株式会社ふたば・社長、福島県富岡町（途中参加）

林 裕文：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校教諭

小磯匡大：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校教諭

永井祐二：早稲田大学環境総合研究センター・研究院准教授

岡田久典：早稲田大学環境総合研究センター・上級研究員

李 洸昊：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・助教

佐藤亜紀：HAMADOORI 13 事務局

高原耕平：ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター・主任研究員

戸川卓哉：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員

豊田利久：神戸大学・名誉教授

辻 岳史：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・研究員

除本理史：大阪市立大学大学院経営学研究科・教授

吉田 学：HAMADOORI 13・代表、株式会社タイズスタイル・代表取締役、福島県大熊町
（欠席）

小松和真：福島県広野町復興企画課・課長

南郷市兵：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校副校長

小野田弘士：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・教授

阪本真由美：兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・教授

佐々木俊介：早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター・講師

島田 剛：明治大学情報コミュニケーション学部・准教授

ゲスト報告者：

伊藤 駿：広島文化学園大学学芸学部・講師

中丸 和：大阪大学人間科学研究科大学院生

オブザーバー：

原田 浩：元広島市国際平和担当理事兼広島平和記念資料館・館長、広島市ピースツーリズム推進懇
談会・座長

小林正明：中間貯蔵・環境安全事業株式会社・社長

藤川正浩：NHK 制作局

（他 1 名）

事務局:

山田美香：早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・福島駐在研究員
朱 鉦：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士課程
中野健太郎：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・博士課程
松川希映：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・修士課程
倉重水優：早稲田大学政治経済学部

司会:松岡俊二（研究会代表）

報告1 中高生、学校が伝承にあたって何を大切にしようとしているのか:2022年チェルノブイリ訪問調査の報告

伊藤 駿:広島文化学園大学学芸学部・講師

中丸 和:大阪大学人間科学研究科大学院生

（詳しくは報告資料を参照ください）

- ・報告者は1986年4月のチェルノブイリ原発4号機事故による原子力災害の伝承について、2020年2月～3月のウクライナの学校や消防署での現地調査結果を紹介した。
- ・ウクライナ政府の推進している世界遺産登録計画が、チェルノブイリ原発（オンサイト）だけでなく、立入制限区域30キロ圏（オフサイト）も対象としたものであることは、1F廃炉の将来像を考える際、良い参考例になりそうである。また、原発事故から35年経った「伝承」の重要性や難しさは、26年経った阪神・淡路大震災や10年経った東日本大震災・福島原発事故の今後の「伝承」のあり方を考える上で、大変参考になる。
- ・原発事故から35年間の社会的学習から、ウクライナ社会が、現在、何を将来世代へ伝承しようとしているのか、何を事故の教訓として防災知識や災害文化としているのか、事故からどのような社会的価値を形成しようとしているのかなどについては、更に深い議論の「場」を持ちたい。福島の事故もチェルノブイリの事故も、人類史的な課題にまで教訓化できるようになってほしい。

報告2 地域の価値をどうつくりだすか

除本理史:大阪市立大学大学院経営学研究科・教授

（詳しくは報告資料を参照ください）

- ・除本委員は、「困難な過去」も学習コミュニティを形成することで「地域の価値」を構成しうることについて、水俣病を事例に報告した。災害や事故からの地域社会の復興過程から、新たな社会の「希望」や「期待」の「物語」を紡ぎ出し、地域資源を有効活用したスモール・ビジネスのクラスターの形成により、多様な交流人口や関係人口を生み出していくという地域再生策を提案した。
- ・世界で唯一の自然災害と原子力災害の複合災害である福島災害は、とても複雑・不確実・曖昧であり、それだけに「物語化」が難しいものがある。しかし、近い人も遠い人も含めた多様な人々の協働による新しい「希望や期待の物語」の作り方そのものも含め、挑戦する価値があるし、挑戦することが福島における「復興と廃炉の両立」に繋がるものであると考えられる。

今後の予定について

11/14（日）13:00-17:00 シンポジウム「広島原爆ドームの世界遺産登録と1F廃炉の将来像を考える」
12月中下旬 第3回創造的復興研究会（2050年の福島浜通りの産業ビジョン）

2022年

1月中旬 第4回創造的復興研究会
中間報告「地域社会の将来の選択肢：2050年のふくしま浜通り」の作成（予）
1月30日（日）10:00-17:00 第9回ふくしま学（楽）会

以上